

『サンデー毎日』
5月9日・16日合併号

衆院議員

平沢勝栄



ひらさわ・かつえい 1945年、岐阜
県生まれ。警察庁を経て、96年、
衆院初当選。現在5期目。拉致問題
への取り組みで知られる

『山の民』

江馬修(春秋社)

『坂の上の雲』

司馬遼太郎(文春文庫)

『海舟座談』

勝海舟(岩波文庫)

飛騨高山の農民の視点から明治維新を描いた『山の民』は、学生時代から何度も読み返しました。明治新政府の苛政に反抗し、反乱に立ち上がる農民の姿は政治家にとって「無理なことを力で押さえつけようとしても失敗する」という大きな戒めになつています。国民には「不当な政策に従う必要はない。団結して戦うことが必要」というメッセージになります。

この本を読むと、鳩山内閣が直面する沖縄の普天間米軍基地移設問題が思い浮かびます。現内閣には、候補地に拳がつている徳之島の住民に対し「最後は納得してくれる」という甘い思い込みが感じられます。しっかりと手順を踏んで理解を求めていかなければならないでしょう。

『坂の上の雲』は、時代の先を見て、大きな志を持つことの大切さを教えてくれます。1860(安政7)年、勝海舟が咸臨丸で太平洋の荒波を乗り越え、米国に渡った時のチャレンジ精神が印象的だったのが『海舟座談』です。新しい世界に果敢に乗り出す冒険精神と、異文化を受け入れる度量の広さは、今の日本人も学ぶべきところが多いのではないのでしょうか。